

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真 GT
山行番	NO. 1918	
日時	2021/5/4 (金) 晴・上部風	
山域	飛騨・乗鞍岳 (肩の小屋まで)	
コース	三本槍駐車場 7:30 - 位ヶ原 9:34 - 肩の小屋口 10:31 - 肩の小屋 11:23 - 滑降一位ヶ原下 12:00 - 三本滝駐車場 12:58	
標高差	上り 三本滝駐車場約1800m～肩の小屋約2770m＝約970m 下り //	
快適度	5 (5段階評価) = 藪なし	
参加者	後藤、加藤	

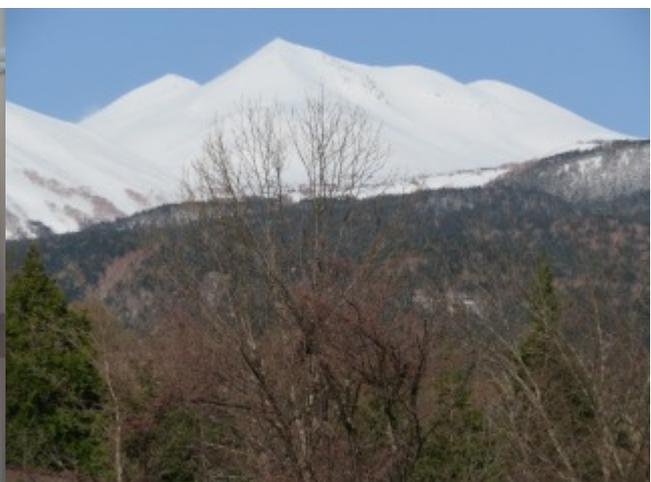
3日＝乗鞍岳に移動。見上げる乗鞍岳は、真っ白で真冬の様相だった。風が強く、まるで冬そのものだった。

4日＝天気予報通り、無風快晴高温だった。位ヶ原山荘までバスが入る予定なので観光センターで待機。大きな駐車場に車は40台くらい。ちょっと少ない感じ。何故だろう？

そうこうしている中、何台の車が上に上って行く。ちょっと変だ？何処かの方がバス停で何かを凝視している。何だろうと思い声を掛けた。バス停には、一枚のビラが風にユラユラしていた。ビラの文面は、「3日・12:00現在 位ヶ原までの林道の積雪状況が不明なので、4日(この日) 9:30まで、運行は休止します」とあった。



お知らせのビラ

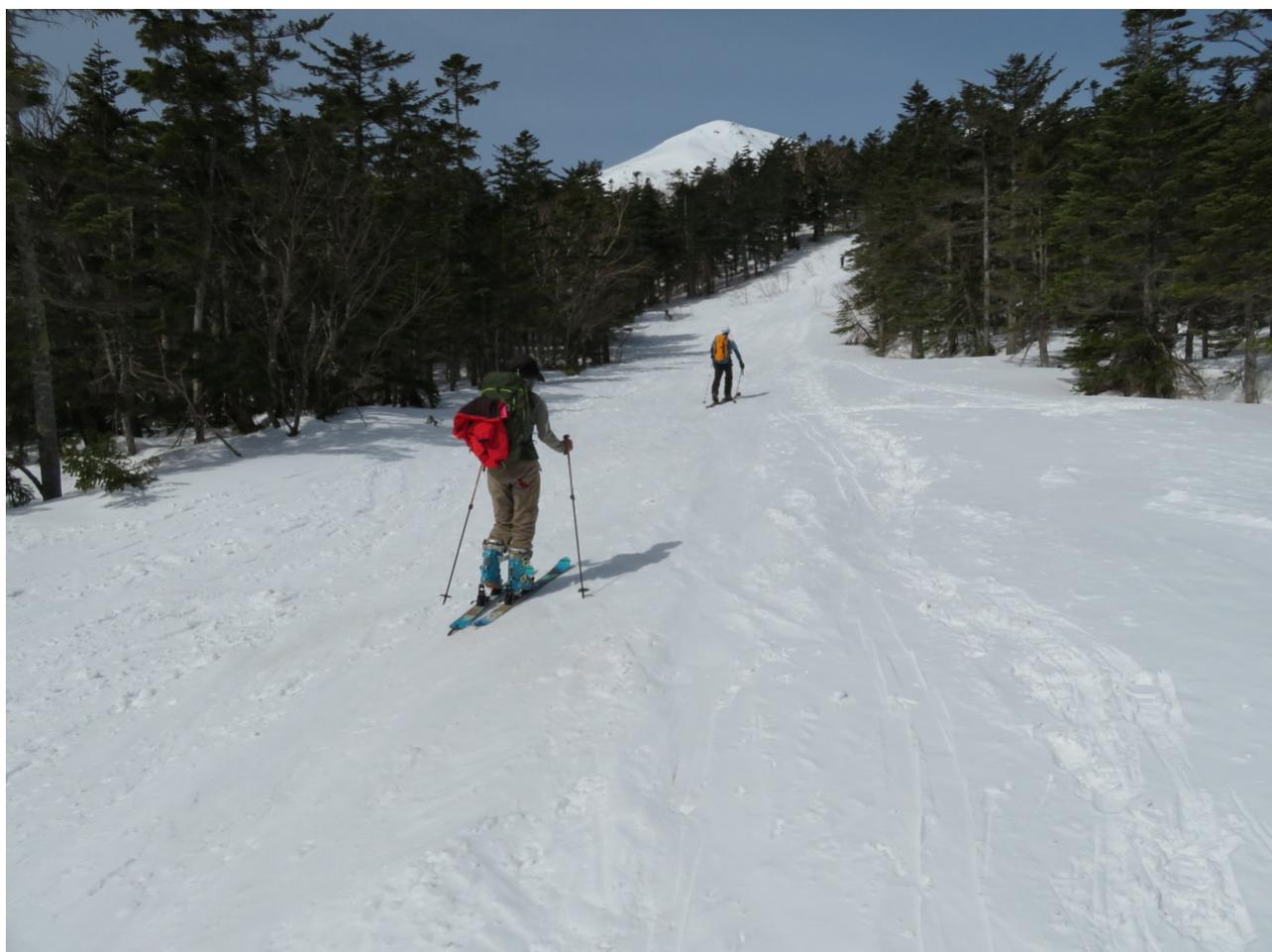


乗鞍岳

ガビ～ン！！なんちゅ～ことだ。こんな大事なことは、もっと大きな表示が欲しい。事務所に電話したら、「これから道路を調べて、0kなら、10:30から運行です」の返事。これでは何時に出掛けられるか分からない。それで、上って行く車の理由が分かった。車は、上の三本滝駐車場まで上って、そこから歩くのだった。

我々も即決断。三本滝まで上った。観光センターに車が少ない理由が分かった。殆どの車がここまで上っていたのだ。最初からバス使用予定はなかったのだ。理由は、ハッキリしていた。この時期、乗鞍岳に上るには、二つのコースがある。

予定していた、位ヶ原山荘は、標高約2350m。頂上まで約700m。時間は約2時間。短くて楽だ。しかし、その分滑降は楽しめない。三本滝は、標高約1800m。位ヶ原山荘と標高差は550mある。その分、滑降は長く楽しめる。



ツアー・コース

ただ、三本滝は標高が低い分、雪解けは早い。雪が上部に繋がっていなければ使えない。しかし、しかし、雪は駐車場から見事に繋がっていた。これなら使える。例え、バスが使えても、時間が遅いので、頂上を狙う方は、早朝、ここから歩いた方が早い。標高差550mなら、2時間余分に歩けばOKある。

しかも、往復3000円の高いバス代金が「儲かる(?)」もっと、早くピラに気が付くべきだった。いや、というか、バス利用は、そもそも戦略が間違っていた。最初から、三本滝から上るべきだった。乗鞍の5月連休は初めてで、それが分からなかった。経験不足が否めなかった。

それでも、三本滝を7:30に出発出来た。ゲレンデ最上部からツアーコース頭は、急登なのでスキーは背負って行く。天気は、無風快晴。やや硬い雪を踏む音だけがザックザックと耳に響く。ゲレンデを上り切り、ツアーコースの壁を越えて、シールで上る。雪が締まっているので、スキーのが楽だ。ゾロゾロ、多くの方が上って行く。

乗鞍岳は、昔よく通った。最初に訪れたのは、1994年3月だった。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/1-2-2.pdf>

私、長岡、加藤（貴）、香取の4名。M 労山で山岳スキー。記録を見たら、国民宿舎から頂上まで標高差＝約1526m。上り時間は約7時間だった。この時は、鳥居尾根～位ヶ原経由だったので、大回りで時間が掛かった。それでも、3月によく頂上を落した。下りは、2時間だから、やっぱりスキーは速い。



位ヶ原



位ヶ原（風がある）

笑ったのが帰路で、遅くなったので、安曇湖畔でテント泊し、家帰着は、6：00の朝帰りだった。安曇湖の記憶は全くないが、何処にあるのか調べたら、古代はあったらしいが、現在は存在しないようだ。

湖があった証拠に現在も、島々・島内・渚・海渡などの名称が残る。そういえば、先日入った温泉の看板に、安曇人は元々、九州から来た「海族」とあったが・・・。しかし、何処にテント泊したのだろうか。不思議だ??

位ヶ原に上がる壁に達した。ここで今年3月15日、大きな雪崩があり、1名亡くなった。以前から、雪崩要注意箇所。毎年、規模の大小はあれ雪崩がある。雪崩は、偶然でなく、毎年・毎回、同じ個所で発生する。だから、ある程度は回避できる。

上る時は、沢中心でなく、左手の尾根を上れば、例え雪崩に遭遇しても、大事に至らない。山の事故は、「過去に学ぶ」ことが大切だ。



大きな大きな乗鞍岳

壁を抜けて位ヶ原に出た。広大な雪原が広がる。いつも風がある。今回も晴れているが風が強い。地形的なものだろうか。それでも傾斜は緩くなり、上りは楽になった。

真っ白い乗鞍岳が圧倒的。多くの登山者が、蟻のように、上へ上へと上って行く。さながら蜘蛛の糸の亡者のようだ。右手奥に建屋が見える。夏、バスが終点の「肩の小屋口」だ。標高は約2650m。

多くの登山者が休んでいる。本来、トイレがあるが雪で塞がって使えない。行儀は悪いが裏で済ませた。トイレを我慢するのは良くない。特にスキーの場合は、瞬間的に膀胱に大きな負荷が掛かるので、満タンだと危険といわれる。

ここで下る方もいるが、標高約2780mの肩の小屋まで頑張る。小屋下は風が強いことも相まって、雪面はカリカリに凍っていた。今回はここで終了。バス運行停止が分かっている、あと2時間早く出れば、頂上に行けただろう。ちょっと残念。

滑降に移る。最初は慎重に下るが、すぐ雪が良くなって、大胆に攻める。ザラメのサイコーの雪だった。このところスッキリしない滑降が多かったが、今回は超サイコーだった。雪が適当にホドホドの抵抗があって滑り易い。

ガンガン攻める。スキーをやっていて良かったと思うのはこんな時。ま、しかし、山岳スキーは、99%地獄で天国は1%だ。ただ、その1%に救われる。

12時を回ったが、それにしても、多くの方が上って来る。いささか遅いじゃないでしょうか??ある意味、上って来る方を見ながらの滑降は、快感といえば快感。ちょっと嫌みっつらしいが、「ご



位ヶ原滑降

苦労さま～」の感じである。

極めて快適にガンガン下って行く。先に雪崩があった壁がある。雪の状態が悪いと、厳しい場所だが、今回は問題なかった。イイ感じで下った。

下りきった所で大休憩。風がなく陽光が溢れシアワセ。休憩後、ツアーコースを飛ばし、ゲレンデ上の壁。ここも、中々、難しい。横滑りでこなしてゲレンデに入る。ゲレンデは中壁に雪がなく歩いた。

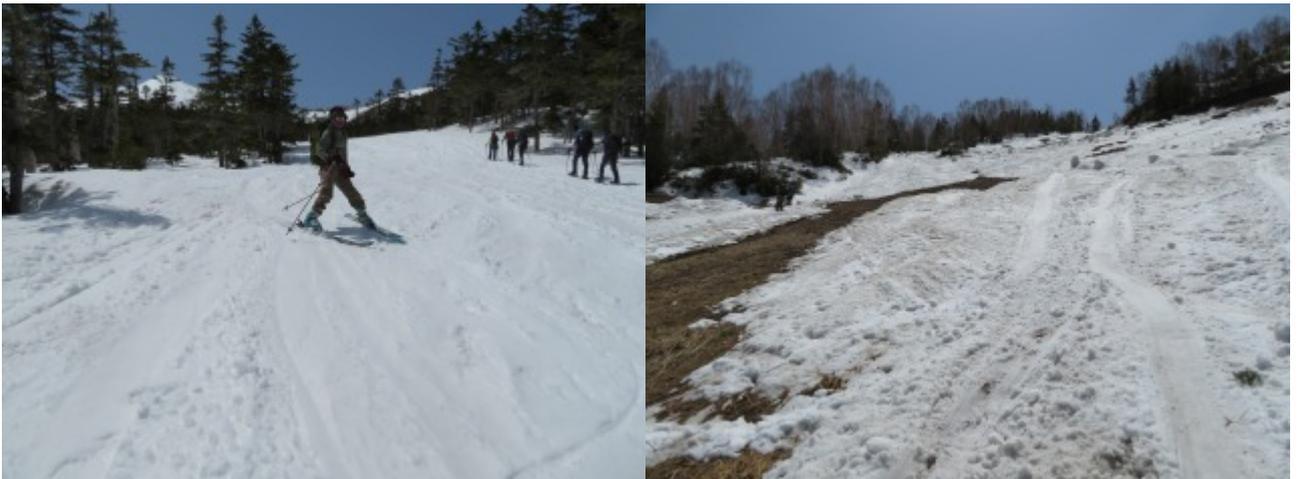
最下部のゲレンデを滑って終了。先行していた方を最後に抜かした。スキーの場合、交通機関まで、「如何に歩かないか」が問題。最上級のスキーをやっても、車まで1時間も歩いたら楽しくない。最近少雪でおおむね難しくなったが、以前は、富士山・富士宮口スキーは、完全に五合目駐車場まで滑り降りえた。頂上から滑降して、歩行は0m。完璧な山岳スキーだった。

しかし、昨今の温暖化で昔の様相はなくなってしまった。兎に角、雪が少ない。スキーは、山岳でもゲレンデでも、雪が多くないと全うできない。車に到着しラーメンで空腹を満たした。インスタント・ラーメンだが、実に美味しい。勿論、雪塊で冷やした、ビアもである。

隣の車の方が降りて来た。我々より出発は早かった。肩の小屋までといった。聞けば、一人の方は「静岡市」だった。静岡労山も知っていた。名刺を渡したが名前は失念した。(メールが来れば判明だが)



位ヶ原



今回は、久しぶりの乗鞍岳だったが、サイコーの山岳スキーを堪能できた。また、行こう！！
（12日分かったが、この日、歩きで静岡労山のSさんも上ったという。交流出来ず残念だった！！やっぱり、事前情報が必要だね）



ゲレンデ下部



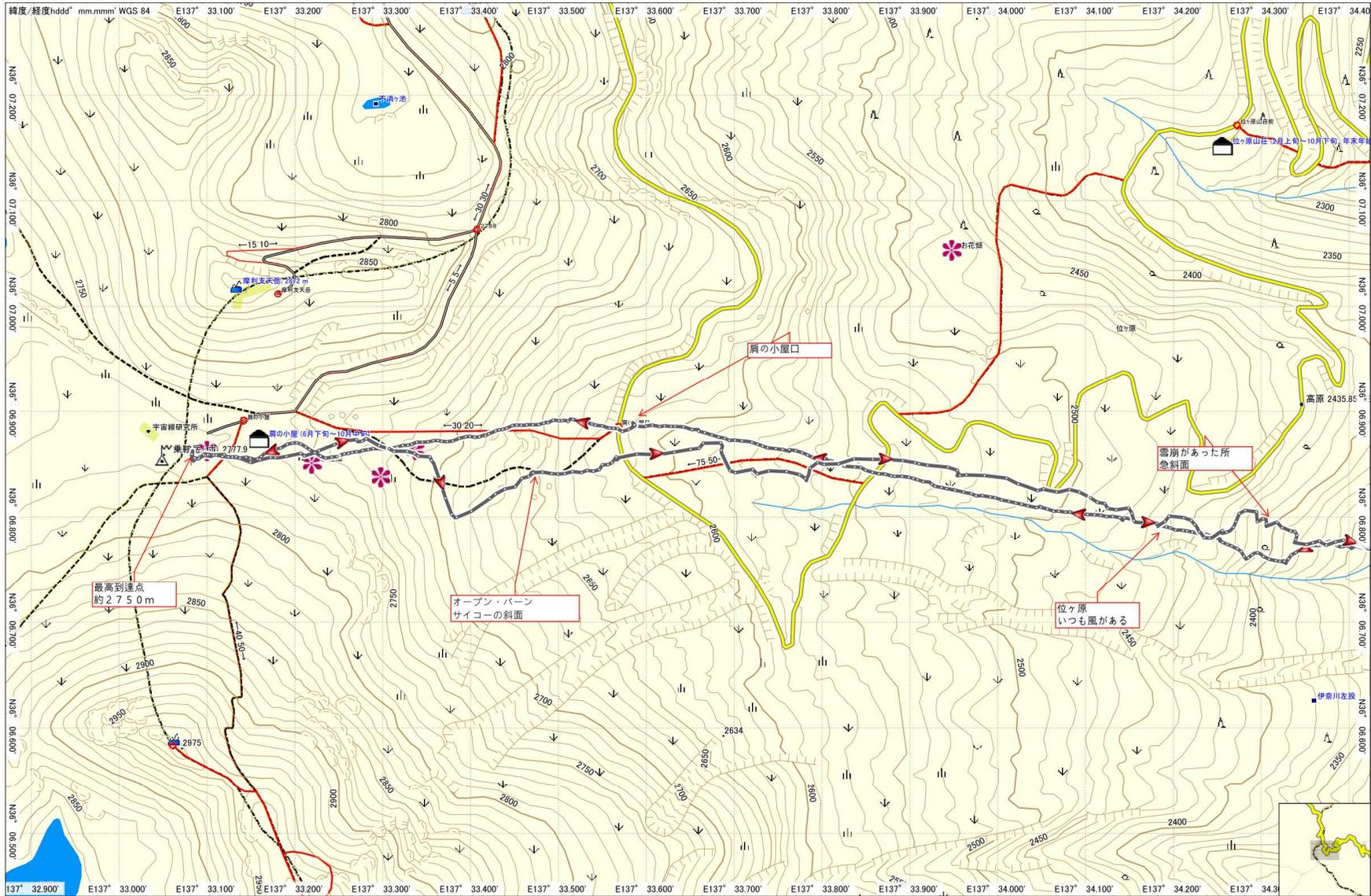
ゲレンデ最下部



三本滝駐車場



ビア



Japan Topo 10M Plus V3
© Garmin/DeLorme Co., Ltd. 2014
Garmin Corporation 1999-2014

2021/05/06 14:07:57

GARMIN